

## 2014年度 第1回 「平和を考える集い」を開催

憲法解釈変更による集団的自衛権の行使容認の閣議決定がされ、海外での武力行使を可能にしようとするなど、平和や立憲主義が危機的な状況となっている中、連合北海道は、平和とは何か改めて問い、ともに考える機会とするため、8月27日、かでの2.7において、第1回目となる「平和を考える集い」を約500名の参加のもと開催した。



冒頭、主催者挨拶にたった工藤和男会長は、「戦争で人は殺し、殺される。どのようなことがあっても避けるべきであり、平和や人間としての生存を脅かす戦争について知り、考え、伝えることで、平和の大切さを広め育てていくことが重要」と述べた。



引き続き、沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガンマファイ」代表の具志堅隆松さんより「集団的自衛権と沖縄 遺骨収集から平和を考える」と題し講演をいただいた。「ガンマファイ」とは沖縄の方言で「壕（ごう＝ガンマ）を掘る人」という意味。沖縄戦戦没者の遺骨を、ガンマの中や防空壕、山野などで掘り起こし、遺骨を家族の元に帰す活動をしている。また遺骨収集を通し、沖縄戦戦没者の慰霊と沖縄戦の実相を考え、次の世代の平和につなげている。具志堅さんは那覇市内の激戦地が遺骨収集しないまま開発工事などで消えていくのに危機感を覚え、遺骨収集の必要性を那覇市やマスコミに訴え、那覇市と共催で市民参加型の遺骨収集を実施。また、ホームレスや失業者、生活保護受給者の方達を作業員とした「緊急雇用創出事業」としての遺骨収集も実施している。そこで出土した遺骨を厚生労働省にDNA鑑定を要請、それによって身元が判明するのだが、DNA鑑定は遺品などで氏名が特定できることが条件とされ、なかなか進まない状況にあると説明がされた。また、平和学習として体験発掘に訪れる子ども達の受け入れも積極的に行っており、その子ども達に「発掘に関わるだけが参加ではない。現場に来て見ることも参加だ。今日、テレビでも写真でもなく自分の目で事実を確認したということは、あなたたちは次の沖縄戦の証言者になるのだ。そして何よりも大事なのは、この人達がなぜここで死ななければならなかったのか、そのことをよく考えてほしい。一人ひとりが考えれば、自分達が将来こういう目に遭わないようにすることができるのだと伝えている。」と語った。



最後に、会場の参加者に「沖縄戦で北海道の人が1万人余り亡くなっている。遺骨が20体出てきたら、そのうち1体は北海道の人だ。ぜひ、自分たちのこととしてとらえ、沖縄県議会、沖縄県に対し、北海道の人間は沖縄の遺骨収集については意見を言わなければいけない立場なんだということに気付いてほしい。それが、次の戦争が始まることにブレーキをかけることにつながるはず。」と強く訴えた。

連合北海道は今後も、広く道民の方々と連携し、平和で民主的な社会の実現に向けて、組織の総力をあげて平和運動を展開していく。